



まちを活性化する 「都市基盤」を整える

人口減少・少子高齢化が進む現在、時代に対応し、快適で魅力あふれるまちづくりが求められています。

各務原市では、誰もが住みやすく災害に強い、快適で安全なまちを目指して、道路や公共交通、上下水道などの生活基盤を適切に整備・管理しています。

関連する SDGs のゴール



(注) 新型コロナウイルス感染症の影響などにより、中止となった事業もあります

人の交流や産業を支える道路

産業の発展や人の交流など、まちの活性化のためには、広域を結ぶネットワーク、そして市の骨格となる交通網を整備することが重要です。

市内生活道路の、防災・交通面での安全性を高めるとともに、県内や愛知県など広域を結ぶ「日野岩地大野線」や「犬山東町線バイパス」などの広域幹線道路の整備に取り組んでいます。



鉄道を軸に、各地域をカバーする



公共交通として、市内には JR 高山本線と名古屋鉄道各務原線が走り、計 16 の鉄道駅があります。また、民間の路線バスや高速バスに加え、各地域では、市が運行するコミュニティバス「ふれあいバス」、デマンド型交通「ふれあいタクシー」が運行するほか、令和 2 年 10 月からは、AI 配車システムによるデマンド型交通「チョイソコかかみがはら」を実証実験として一部地域で導入しています。

平成 27 年に策定した「市域公共交通網形成計画」は、令和 2 年 4 月に後期計画を策定し、地域の実情に応じたサービス提供を目指しています。

そのほか、毎年、ふれあいバスを含めた公共交通についての懇談会を開催し、市民の皆さんとの「対話」を通して、随時改正を行い、よりよい公共交通ネットワークづくりに取り組んでいます。